

アスパラガスの需給動向

調査情報部

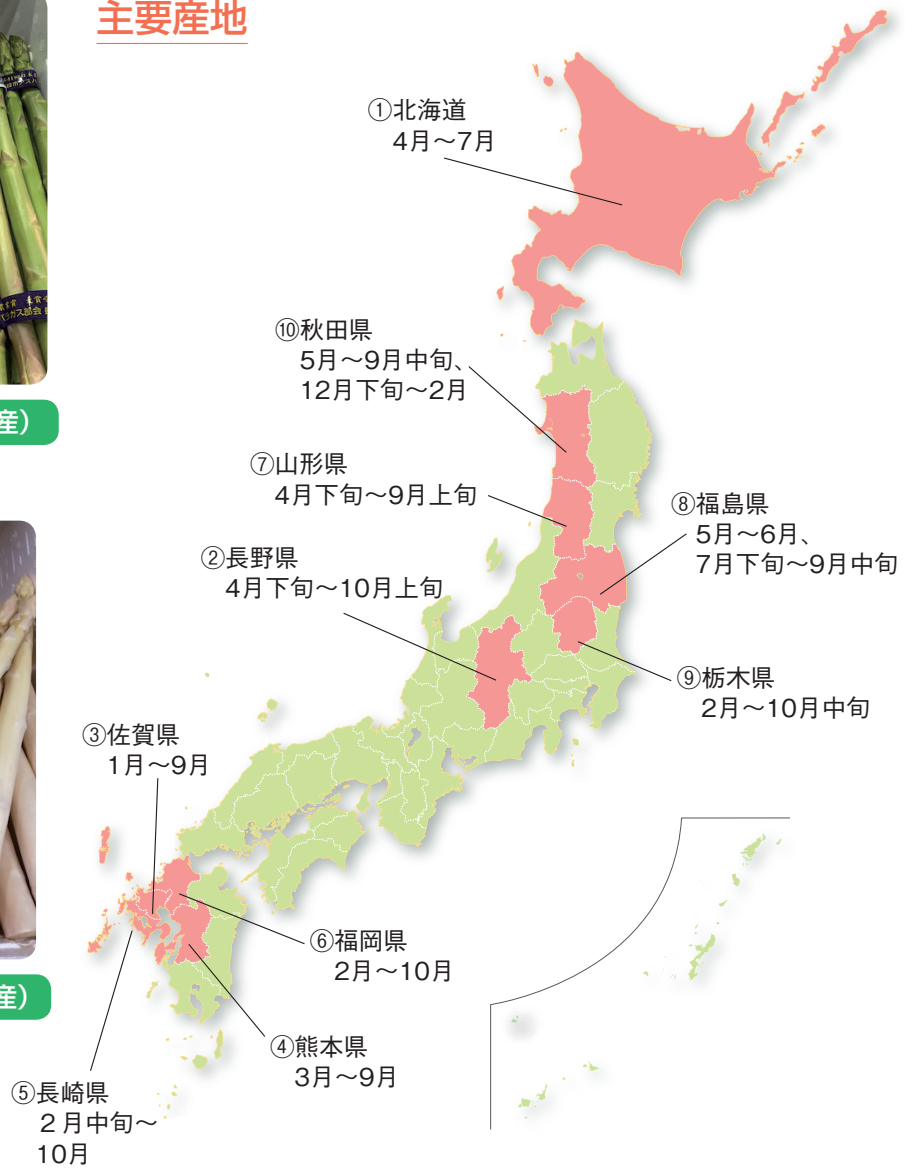


グリーンアスパラガス(長崎県産)



ホワイトアスパラガス(佐賀県産)

主要産地



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

アスパラガスはユリ科アスパラガス属の多年草で雌雄別株の植物である。また、アスパラガスは「茎葉が非常に細かく分岐している」という意味のギリシャ語を語源としている。原産地はヨーロッパ南部からロシアとされ、江戸時代にオランダ人によって長崎に伝えられたという説があるが当初は観賞用であった。食用としての栽培は、1871年に北海道開拓団によって導入された

のが始まりとされているが、当時は缶詰用のホワイトアスパラガスが主流であった。アスパラガスは戦後の食生活の洋風化や健康志向の高まりとともに、現在ではグリーンアスパラガスが主体で流通量の9割以上を占め、それ以外に生鮮のホワイトアスパラガス、紫アスパラガス、ミニアスパラガスなどバリエーションが増えている。

作付面積・出荷量・単収の推移

平成29年の作付面積は、5,330ヘクタール（28年比98.3%）と、28年に比べてやや減少した。

上位5県では、

- ・北海道 1,310ヘクタール（同 94.2%）
- ・長野県 949ヘクタール（同 101.0%）
- ・秋田県 410ヘクタール（同 100.0%）
- ・福島県 379ヘクタール（同 97.4%）
- ・山形県 359ヘクタール（同 101.4%）

となっている。

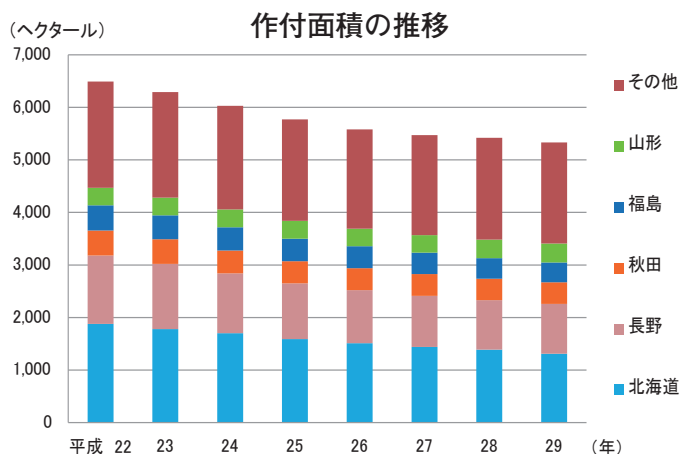
平成29年の出荷量は、23,000トン（28年比85.8%）と、28年に比べてかなり大きく減少した。28年秋の台風や天候不順による圃場の冠水、株の損傷などから生育が悪く、春先の出荷に大きく影響した。

上位5県では、

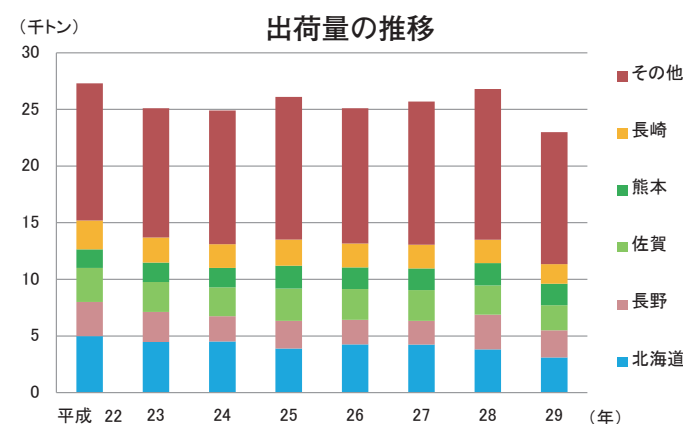
- ・北海道 3,110トン（同 81.4%）
- ・長野県 2,390トン（同 78.1%）
- ・佐賀県 2,220トン（同 86.0%）
- ・熊本県 1,890トン（同 95.9%）
- ・長崎県 1,740トン（同 84.1%）

となっている。

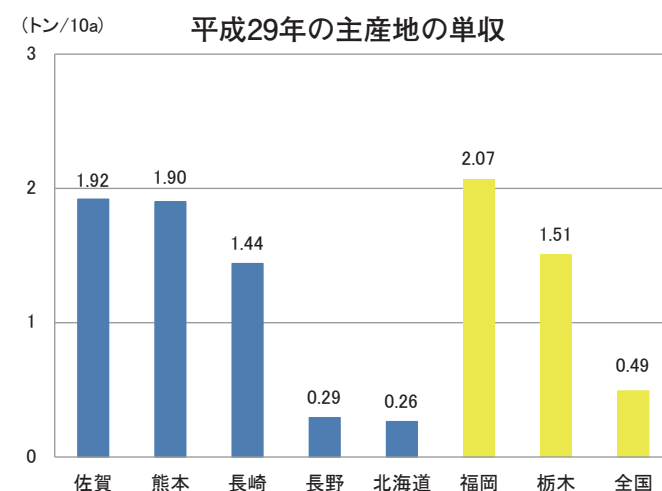
出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、佐賀県の1.92トンが最も多く、次いで熊本県の1.90トン、長崎県の1.44トンと続いている。その他の県で多いのは、福岡県の2.07トン、栃木県の1.51トンであり、全国平均は0.49トンとなっている。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い2県および全国平均。

作付けされている主な品種等

植え付けの2～3年後から収穫され、10年以上収穫することも可能だが一般的には10年程度で植替えをする。作型には、主に九州などの暖地で栽培される春採りと東北や甲信越、北海道の産地で栽培される夏採りがある。春採りはゆっくり育つので味が濃く、

夏採りは成長が早く1晩で10センチほど成長するため柔らかい。雄株と雌株で生育に差がある他、雌株に着果する種子が落ちて雑草化することから、生育株の多くが雄株になる系統もある。ラスノーブルは北海道の美瑛のみで生産されている品種である。

都道府県名	主な品種
北海道	ガインリム、スーパーウェルカム、ウェルカム、ラスノーブル
長野県	ウェルカム、スーパーウェルカム、ゼンユウガリバー（全雄系）
佐賀県	ウェルカム、
熊本県	ウェルカム、スーパーウェルカム
長崎県	ウェルカム

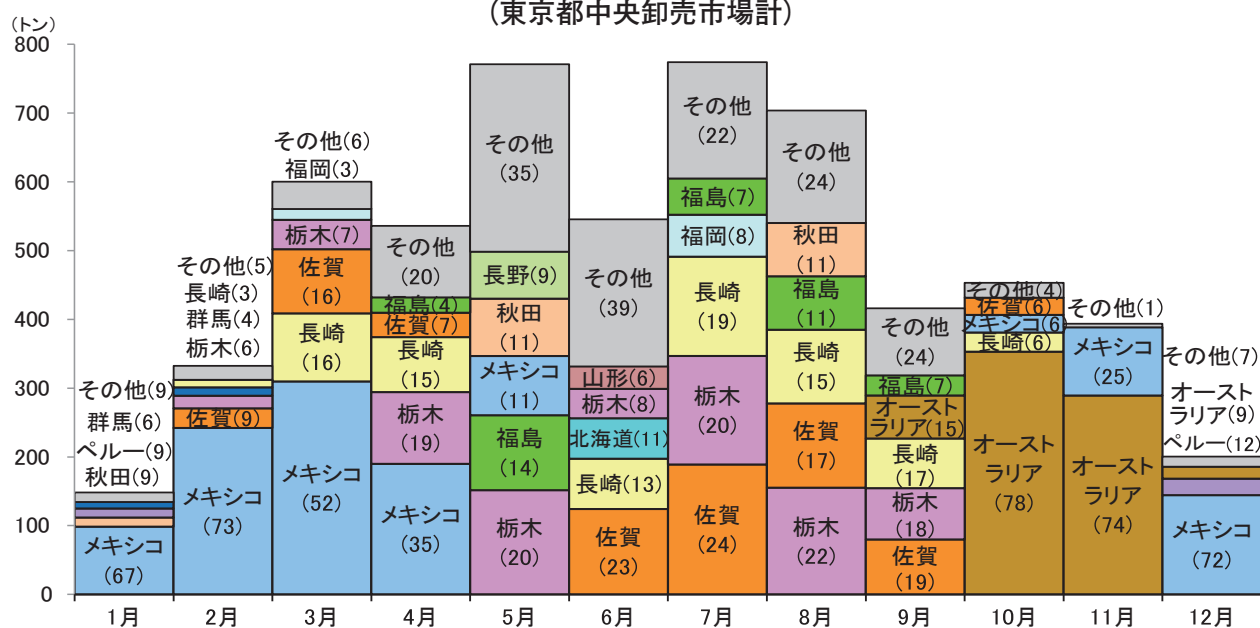
資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成。

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成29年）を見ると、1～2月はメキシコ産が多く、3～5月には国産の長崎産、佐賀産、栃木産が入荷し、5～8月はさらに福島産、

秋田産、長野産といった北日本の産地からの入荷が増えてピークとなった。9月以降は入荷量が減り、10～11月は豪州産が増え、12月には再びメキシコ産が多くなった。

平成29年 アスパラガスの月別入荷実績
(東京都中央卸売市場計)



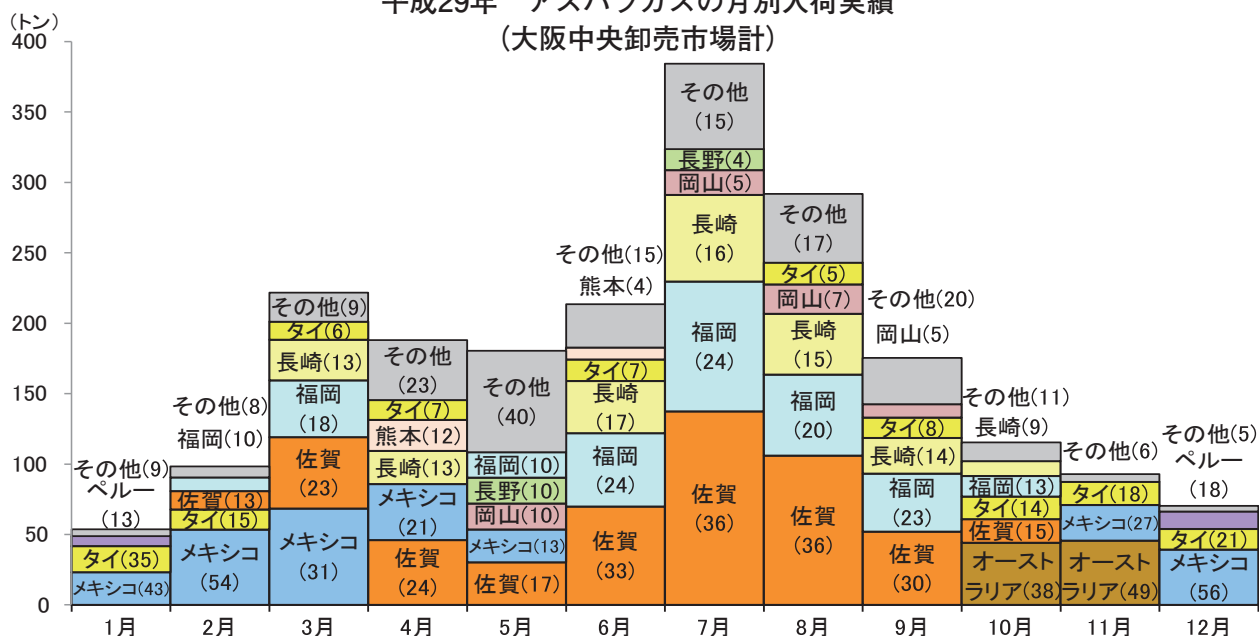
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成29年東京都中央卸売市場年報）

注1：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成29年）を見ると、1～2月はメキシコ産、タイ産、ペルー産といった輸入品が多いが、3月以降は佐賀産、福岡産、長崎産が増えはじめ7月のピークに向けて岡山産や長野産の入

荷がみられた。9月までは九州の産地からの入荷が中心となるが10～11月は豪州産が主流となり、その他、メキシコ産、タイ産といった輸入ものが中心となった。

平成29年 アスパラガスの月別入荷実績
(大阪中央卸売市場計)



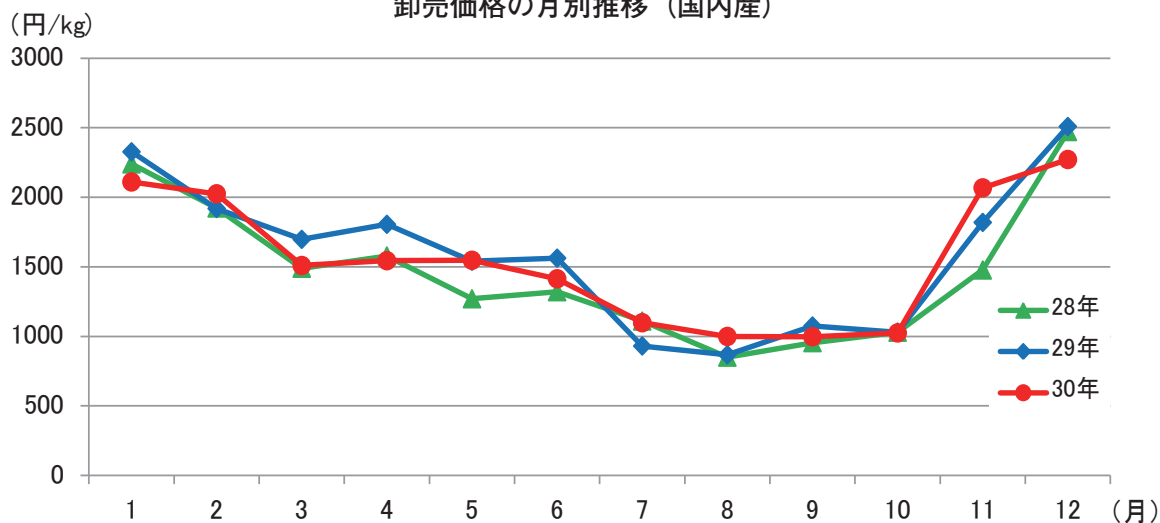
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成29年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）
注1：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場における国内産アスパラガスの価格は、入荷量の増加に伴って1月から徐々に下降し、11月以降に上昇する傾向

が見られる。年によって大きな変動はなく、平成30年は997～2272円（年平均1315円）の間で推移している。

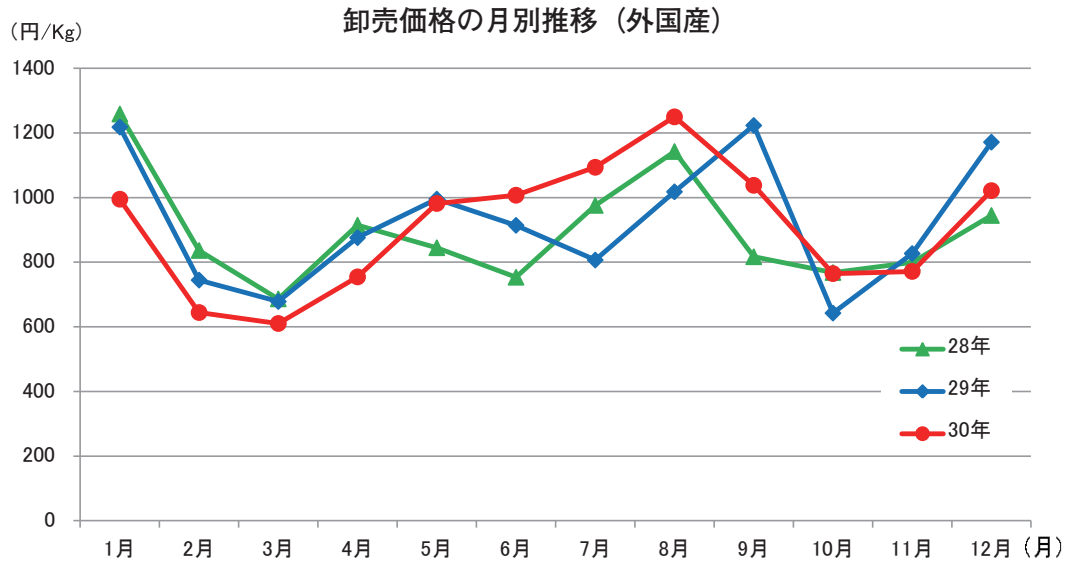
卸売価格の月別推移（国内産）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

外国産アスパラガスの価格も大きな変動はなく、7~9月は高めに推移し10月に急落した後、年末から年明けにかけて高くなるという傾向がある。30年は610~1250円（年平均777円）の間で推移した。

う傾向がある。30年は610~1250円（年平均777円）の間で推移した。

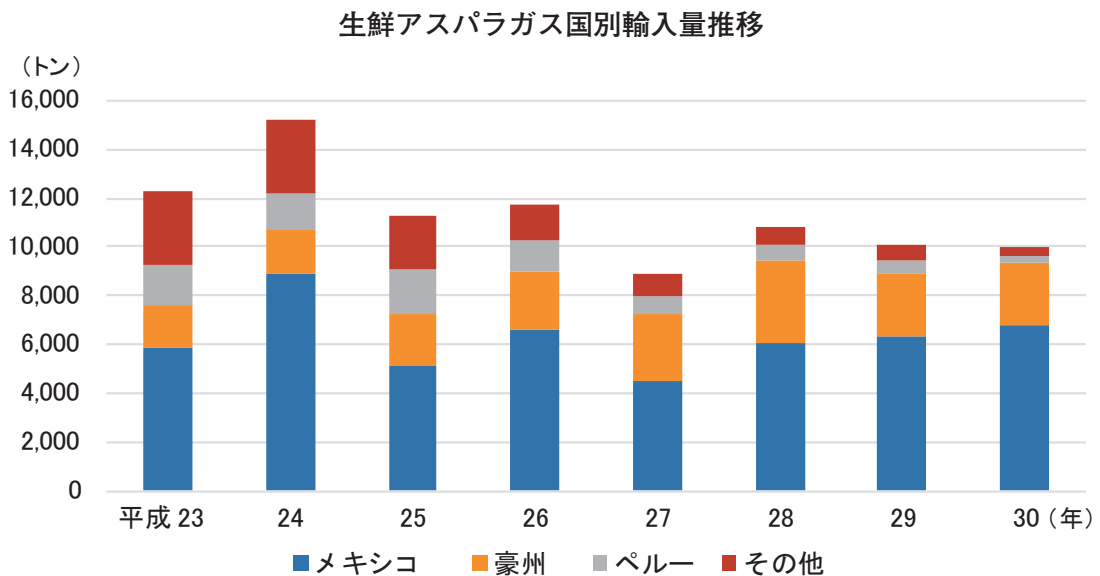


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

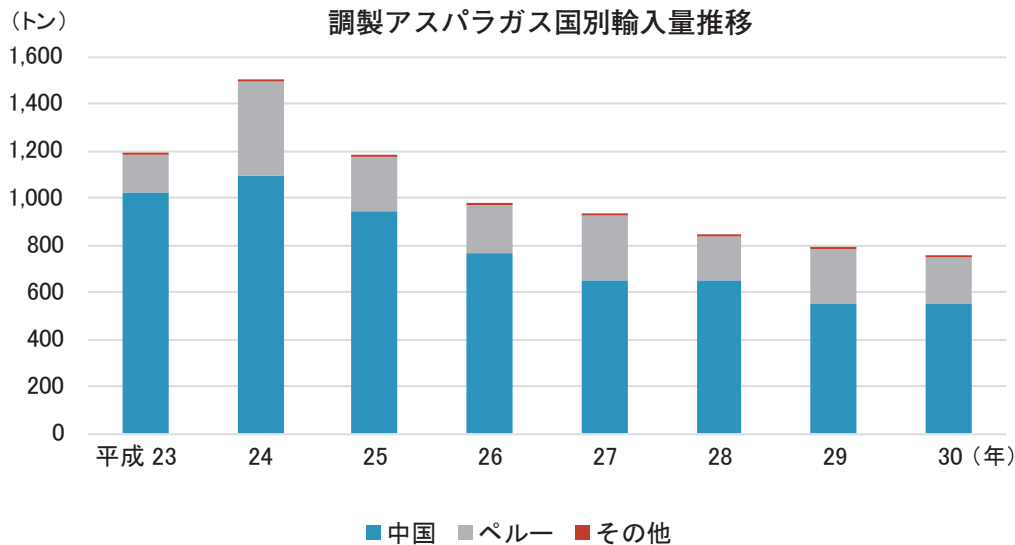
輸入量の動向

生鮮アスパラガスの輸入量は平成24年をピークに減少傾向で近年は1万トン前後で推移している。メキシコ産の割合が高く、次いで

で豪州産、ペルー産が続く。調製アスパラガスは中国産に次いでペルー産が多くなっている。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）



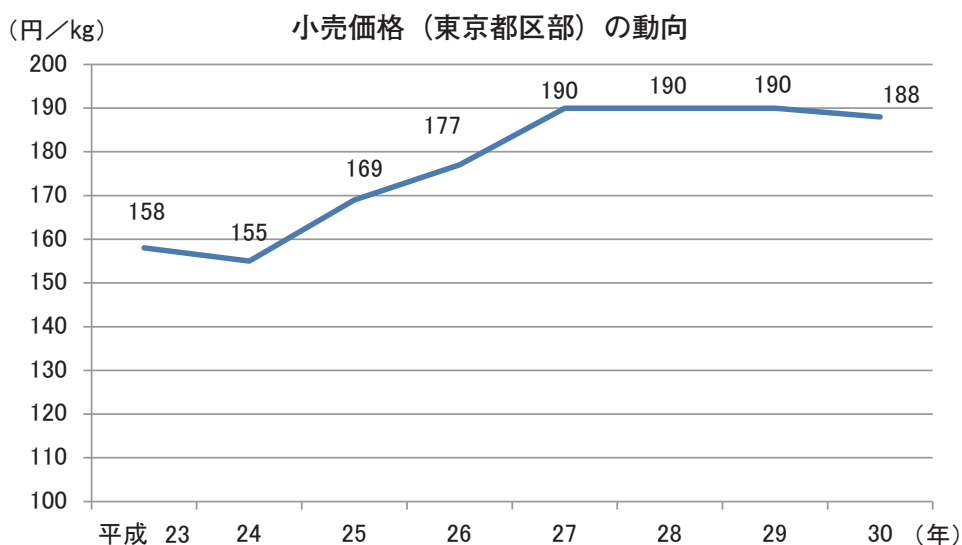
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

アスパラガスの消費動向

国産アスパラガスの春採りは1月から、夏採りは5月ころから出荷が始まる。キログラム当たりの小売価格は155円（24年）から190円（27年）まで上昇した後、その後は190円前後で安定して推移している。

野菜として利用するのは若芽の部分だが、収穫後も成長を続けることから、出荷時には真空予冷で芯まで冷却して出荷される。鮮度を保つため、購入後も穂先を上を立てて野菜

室で保存しましょう。栄養価は非常に高く、特に葉酸、アスパラギン酸、ビタミンEの含有量が多いのが特徴です。根元の硬い部分もピーラーで表面をむけば柔らかく食べやすいので無駄なく使ってみましょう。4月は、新生活がスタートしストレスもたまりやすい季節です。疲労回復を早め、目にも鮮やかなアスパラガスをぜひお召し上がりください。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「小売物価統計」）